

第40回（令和3年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校低学年の部＞応募総数：103

	学校名	学年	氏名	題名
優 秀	下川口小学校	1年	溝渕 成	もぐらにはこんなことができるよ
	三崎小学校	2年	平田 桜空	「わたしたちのカMEMシ図かん」
入 選	清水小学校	1年	久寿 日晴	「すみっこおばけ」
	足摺岬小学校	1年	中川 菜月	「あなふさぎのジグモンタ」をよんで
	清水小学校	2年	畑山 花凜	「たぬきの教しつ」
	下ノ加江小学校	2年	山崎 大輝	ママのごはん
	下ノ加江小学校	2年	沖 希偉稚	虫はおもしろい

【審査評】

- 誤字・脱字が多く、書く字に「いねいさ」がほしかった。
- 素直に自分の思いを書けていたが、それのみを書いている作品も多く、自分の思いや内容を区別して書けていればさらに良かった。

第40回（令和3年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校中学年の部＞応募総数：129

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水小学校	3年	廣田 薫風	「ぼくからのおくり物」
優 秀	清水小学校	3年	佐藤 悠真	「海のぎたい生物」
	下川口小学校	4年	濱田 優衣	「にん知しようのことを考えて」
入 選	三崎小学校	3年	西村 暖乃音	平和をねがって
	幡陽小学校	3年	江口 璃依紗	「でんにゃ」を読んで
	足摺岬小学校	4年	野村 涼太	めざせ！メロス
	下川口小学校	4年	中山 未悠	わたしの知らなかったこと
	清水小学校	4年	田村 彩音	亡くなった人をおもいうかべて

【審査評】

- 発達段階に応じた適切な本が選べていた。
- 誤字脱字が少なく、文章表記間のまちがいも少なかった。
- 登場人物と自分の体験とを重ねて書かれてあるものは思いが伝わってくる
- 本から学んだことをもとに、自分のこれからの行動や決意を書いているよい作品があった
- あらすじにとらわれていて説明的になっているものがあった。
- 「なので」という接続語や「すごい」という言葉が簡単に使われているように思う。

第40回（令和3年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校高学年の部＞応募総数：127

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水小学校	5年	大島 響	『感動』と出会った
優 秀	下川口小学校	6年	竹葉 俊陽	「ぼくの街に地震が来た」を読んで
	幡陽小学校	6年	安田 光来	大渋滞を読んで
入 選	下ノ加江小学校	5年	松岡 蕾花	いのちの花
	幡陽小学校	5年	谷岡 璃珠	海をわたった折り鶴を読んで
	下川口小学校	5年	公文 歩	「自分ってなんだろう」を読んで
	三崎小学校	6年	池浦 新大	三本足のタロー
	足摺岬小学校	6年	松下 一真	「捨て犬たちとめざす明日」を読んで

【審査評】

- 読書の感想の中に書き手の子どもの姿が見えてくる作品が多かったように思う。
- 上級生には、読書で考えが変わったこと、分かったこと、感じたこと、深まったこと等の表現の仕方に弱さを感じた。

第40回（令和3年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜中学校の部＞応募総数：179

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水中学校	1年	浜口 夏葵	「かがみの孤城」を読んで
優 秀	清水中学校	3年	山本 琉愛	完璧な人間なんていない
	清水中学校	3年	川村 芽唯	「看取りの医者」を読んで
入 選	清水中学校	1年	堀野 永歩	いい人ランキング
	清水中学校	1年	鍋島 乃愛	犬といのち
	清水中学校	1年	西村 歩純	レモンの図書室
	清水中学校	2年	藤原 由衣	「自分を信じて」
	清水中学校	3年	海辺 聖梨香	感謝すること

【審査評】

今年度は、例年と同じく選ぶ本の種類は多岐にわたっているが、新型コロナウイルスに脅かされる今の状況に結び付けたり、人権問題、社会問題に結び付けたりと、自分の考えの幅が広がっていく作品が多いように感じられた。特に入選作品は、本を通して学んだことや、考え方が変わっていく様子が明確に述べられていて、個々の成長が身近に感じられるものになっていた。

最優秀作品は、本の主人公が同じ中学生で、自分自身と重ね合わせながら書けており、現実的で引き付けられる書きぶりであった。学年関係なく、自分の視野を広げる読書ができていると感じられる作品が多かったが、「読書感想文」なので、本を読んで印象に残った場面や会話を取り上げながら書くことが大事であり、そこが賞の分かれ目となった。

今後も読書に親しみ、見える世界を広げていってほしい。

第40（令和3年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

<高等学校の部>応募総数：61

	学校名	学年	氏名	題名
優秀	清水高等学校	2年	扇喜 舞花	生きるって寂しい
入選	清水高等学校	2年	井村 夏美	「愛してるよ、カズ」

【審査評】

本年度も様々なテーマの作品について書かれていました。

なかでも、恋愛や人間関係、何より自分との付き合い方を描いたエッセイを読んで自分の考えを述べていった作品と、幼くして亡くなった子どもの話から自分の祖父、そして命のはかなさ、大切さを語った作品の二つは秀逸でした。

さまざまなテーマに共感しながら作品を読み進め、「自己」や「他者」という存在について考えていくことは、高校生として成長する良い糧となってくれたことだろうと思います。

また、そこで感じた率直な思いを拙くとも自身の言葉で一生懸命に語る事ができていた点には好感を覚えます。

皆、この素晴らしい読書の経験を通して心を豊かにし、視野を広げ、今後の高校生活を実りあるものにしてほしいと思います。